



靖國神社 遊就館

戦時徴用船遭難の記録画 東京で開催 大久保一郎遺作展

昨年8月24日から9月1日まで、「靖國神社遊就館 広間（本館玄関ホール）」で、第39回「戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展」を開催

した。首都圏などからご遺族や市民ら約6000人が来場し、壮絶悲惨な戦没船と船員の記録画37点を観覧した。

靖國神社での絵画展は、平成16年7月13日から8月29日まで、遊就館・企画展示室で特別絵画展「雄魂なる戦時徴用船の記録・大久保一郎画伯が描く、鎮魂の心」（主催・靖國神社、日本殉職船員顕彰会、共催）

海防艦顕彰会）を開催し、一カ月半の会期中に約3万人が来場した。また、特別絵画展会期中に、攻撃され沈没する戦時徴用船で九死に一生を得て生還された元船員4人が戦争体験の講演を行い、入場者が熱心に体験談に耳を傾けた。

来場者からは、絵を見て、講演を聞いて涙が止まりません。戦争のない幸せな生活、人間として普通の生活ができる平和な世の中であってほしい：などの声が寄せられた。

6000人が来場

今回の記録画展はこれまでと同様に、記録画を多くの市民に見ていただいて戦争の悲惨さを実感し、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、当会による39回目の巡回展として開催した。

多くの来場者を迎えるため、当会のホームページや広報誌「潮騒」での周知と海事関係団体の広報誌に開



宮原耕治・日本殉職船員顕彰会会長

催案内を掲載していただいた。

また、ポスター、リーフレットなどを作成し、各行政機関、海事関係団体や船社、マスコミなどに事前広報を行った。

連日の猛暑にもかかわらず、会期中9日間の来場者は6000人。

ご遺族をはじめ海事関係者、遠方から、近隣から靖國神社参拝の方々のご予想を超える来場で、用意した配布資料が足りなくなり、急遽、増刷するなどの対応に追われた。

来場者には、今回もアンケートをお願いしました。

約800人から回答があったほか、戦時徴用船の記録画から受けた、感動や感想が多くの方々から寄せられたので、その一部を紹介する。

大久保一郎画伯（1889-1976）



大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵葉書の原画を前に、1956（昭和31）年67歳。

明治22年 大阪市富島町（現在の西区川口）で生まれる。
大正15年 大阪商船（現株商船三井）の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。
昭和17年 大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。
昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86歳。
昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

記録画から受けた感動・感想

来場された約800人から、アンケートが寄せられ、感動・感想が綴られていたので、その一部を年代別にご紹介いたします。

10代の驚き

●女性

生存命の方々が経験した事を絵という形で、現代の人に残していただけたことにとても感謝しております。

まもなく戦後70年になるという中で、どんどん戦争に関わられた方々がお亡くなりになっていきます。しかしながら、私たちは決して戦争を風化させないようにしなくてはなりません。そのために、写真や書籍、絵画の存在はとても有難いことだと感じました。この事を忘れないように、私は生きて行こうと思います。

●男性（埼玉県）

僕の世代だと、船が魚雷などで沈むということはフィクションでしか感じたことがないので、あまり実感が沸きませんでした。

しかし、この遺作展を観て、心が動かされた気がします。襲撃を受けながらも、かわそうとしたり海に飛び込もうとしたりする、必死な姿が一つ一つの絵からしっかりと伝わってきました。

20代の学び

●女性（東京都）

素直に見て泣きたくありません。本当に筆使いが巧みで、まるで写真を見ているような絵だと思いました。徴用船にはたくさん船員が乗っていて、きっと各々船に対して愛情を持っていたと思います。しかし、自分の船が被雷し沈みゆく姿を見た時の気持ち……。考えるだけで涙が出ます。目的地に無事に行きたかっただろうに。仲間を死なせたくなかっただろうに。そして死にた



機密書類を守る「龍興丸」

吉田事務長

くなかったろうに。自分の船が沈むとわかった時、どんな気持ちになるのだろうと、絵を見ながら考えていました。私ならきっと、「生きたい!!!」と、この思いしかないだろうと思います。戦争をしている時代でなければ、きっとこの絵に描かれていた船たちは平和な海で活躍していたでしょうし、船員たちも体の動く限り、海の男として働いていたことでしょう。今回の絵画展の作品を見ていて、どの絵からも魂の叫びが聞こえてきた気がしました。「死にたくない」「生きなければ」「最後まで国のために働こう」そんな叫びが聞こえたように感じました。私がこの作品展の中で一番印象に残った絵は、機密書類を抱えて逃げる吉田事務長を描いた絵です。もう沈みゆく船なのに、燃えさかる炎の中、書類を小脇に抱えて走る吉田事務長。死ぬかもしれないのに、最後まで職務を全うしようとする姿に、大和魂を感じました。このような、現代社会には忘れられかけている歴史を思い出させてくれる作品展はほとんど開催してほしいと思いました。私たち20代は戦争を知りません。しかし、日本で戦争があったことは事実ですし、忘れてはならない事実だと思います。歴史という二文字では片付けられないことだと思います。またこの作品展があったら必ず来ます。ありがとうございます。

●ANDRE'S TORRES POZO さん (30代 エクアドル)

この絵画展は大変興味深かったです。総ての絵が気に入りました。そして大久保画伯の想像力と、いかにして人々の話をただ聞いただけで絵画を描くことができたか、感心しました。

●木村友沢さん (20代 群馬県前橋市)

強烈な体験を絵におこすということは並々ならぬ決意を持たなければできないことです。それを、絵を通して感じたことは後世にも伝えていかなければいけません。

短い時間の館内の閲覧になってしまいましたが、哀しみと感動を同時に感じました。



アンドレスさんと友人の木村さん

●男性

自分が生まれるよりずっと前にあった戦争は、教科書に載っている通りの事だけを習い、年号や国名だけを知識とし、別段興味もなく育ってきました。

しかし、大きくなるにつれ、「どうして戦争が起きたのか」「日本だけが悪者にされているが本当にそうなのか」と思い始めました。インターネットや祖父の話を知ると、やむを得ず、「過去にあった事」以上、それでも、「過去にあった事」以上の感慨を抱けませんでした。

でも、大久保画伯の臨場感溢れる絵画を見て、まるで当時を見てきたかのような錯覚を持ちました。

戦争は起こらないに越したことはありませんが、国の為に散って行った人達への敬意は持ち続けたいです。



●岡田彩花さん
(小6 東京都港区)

写真よりリアルに感じました。
(彩花さんの祖父が特攻の最年少で現在86歳。彩花さん本人が興味を抱き来場した。)

30代の印象

●女性(鹿児島県)

3年前亡くなった父が若い頃、船乗りでした。

観せて頂いた絵の一つを見て、子供の頃聞いた話を思い出しました。

船長は船と運命を共にするという事でした。他の船員をボートに移した後、沈む船に残ったのだと聞いて、子供心にも哀しいのと苦しいのと、敬意のような思いを感じました。

軍の船だけではなく、民間の船や飛行機も戦時中は軍に徴用され、戦場に向かったというの聞いていましたが、あまり詳しいものは観た事はなかったもので、今回の遺作展は、とてもありがたいことでした。

まだまだ自分の知らないものが沢山あるので、これからも色々な場所や様々な人たちの話を聞いて、昔あった事を知っていきたいと思いました。今日は、貴重な絵を観せて頂きありがとうございます。

父は遠い外国の海で何度も命の危険に遭いながら、母の所へ帰ってきてくれたそうです。
(私の生まれる前)

本当にうれしく、ありがたいことだったのだな、と思いました。同時に家族を亡くされた人はどんなにかかっただろうと思います。どうか、これからずっと海の安全が続きますように!!



●女性(埼玉県 戦没船員遺族)

祖父がやはり、徴用船の船長で大変興味があった。

●男性
もっと多くの絵があれば良かった。

後に残った者がどんな形であれ、語り続けることこそが、魂を鎮める方法の本道だと思えます。この展覧会自体を含めて素晴らしいお仕事だと感じました。

●女性

戦史については、比較的よく見聞きしていましたが、ですが、戦時徴用船や商船の被害については、全くと言っていいほど知りませんでした。そのため、今回の企画は戦争の知

らなかつた一面に気付いたとてもよい機会となりました。ありがとうございます。

印象を(よかつた)にした理由は、このような悲惨な事実を知らずに作品を拝見したため、最初はピンと来ませんでした。ですが、併設されていたビデオでようやく詳細を知った次第です。そのため、多くの人達は私と同じような感覚を持つのではないかなと思います。

●女性(千葉県)

当時の方々のことを考えると胸がとても痛みます。

日本中が平和に尽力されたことを思うと、現代の人間として心より感謝と哀悼の意を込めて、これからも生きていこうと強く思いました。このような機会に偶然にもめぐり会えたことに感謝いたします。ありがとうございました。

40代の感想

●女性(東京都)

とても素晴らしい作品に感動しました。これだけ多くの船が犠牲になった事は、あまり世間に知られてないように思います。

社内の一室で密かに描き続けた画伯は、どんな気持ちだったのでしょうか。二度と戦争はあってはならないと強く改めて思います。子供にも伝えていきたいです。

●男性（千葉県 船員）

このたびの催しを拝見させていただき、改めて先の大戦で亡くなられた多くの方々のご無念を思い起こすと共に、今の平和の礎となられた方々への感謝の気持ちを新たにしました。

戦没者というتماず軍人を想い浮かべますが、護衛もなく決死の輸送勤務にあたられた方々のことをご存じの方は、どれほどおられるのでしょうか。このような催しが行われていることに、船員として大変うれしく思います。

これからもあまり脚光を浴びることもなく、国の為に散って行った方々を忘れぬためにも、今回のような催しを行って頂けるよう、お願い申し上げます。

最後に、最も印象に残った陛下の御製を心に刻むことにより、多くの御霊への感謝の気持ちを忘れぬよう、日々の気持ちを大切に生きて行く所存です。

戦なき 世を歩みきて思い出で

かの難き日を 生きし人々

●男性

私たちの父は、捕鯨船船長、海運会社（船長）なので、戦時中に生きていたら、船に乗っていたかと思うと、何とも言えない気持ちです。

●男性

「海に墓標を」を読んでから、是非一度観覧したいと思っていた。

●女性（東京都）

本日の来館により、初めて大久保先生の作品を拝見いたしました。

戦時中、軍用船として徴用された多数の商船があったことは、小学生当時にも伺ったことがありましたが、実際に徴用を受けた船舶会社の方々の証言と記録を残されることを決意された社長のお言葉など、具体的な経緯に接することで、様々な当時のやむを得なかった事情が胸に迫りました。とても厳しく、現在の日常からは考え難い程の困難な任務を、決して投げ出すことなく最後まで遂行されようと努められた船員の皆様、お一人お一人のことを想うと、言葉に尽くせない程の感謝の気持ちと、そうしてご尽力を頂いたからこそ、今現在の私たちが生かされたのだと、つくづくと心に染み入ってまいります。

病院船への襲撃など、話として伺っていたものも、大久保先生の手により絵画として再現されることで、耳から聞いただけでは記憶に残り難い記録が、映像として目で確認できることで、より強い印象を残すことが出来るようになったと実感します。国際条約で禁じられている赤十字を掲げた船への攻撃・・・、本当に酷い事実ですが、これも正しく日本の歴史です。

戦時中の実際について、生活が困難な戦中、戦後を通して油絵で記録

を残された大久保先生へ、深い尊敬の念と感謝の思いで、本日こちらへ回答させていただきます。貴重な作品の数々に触れる機会を頂き、ありがとうございます。



沈みゆく「ぶえのすあいれす丸」

■夫婦（大阪府）

夫 私たちの世代は戦争からの復興が叶い、高度経済成長の波に乗り戦争から離れ始めていく最初の世代と言えます。

ここに（靖國神社）来れば教科書では学ぶことのできないことが、たくさんあると思いやって来ました。もっともつと戦争のことを知り、平和を祈るために、いろいろなことを学びたいと思います。

戦争は決して肯定されるべきではありませんが、この戦争で亡くなら

れた方々に敬意を表し、ご冥福を祈ります。

妻 戦争を知らない世代ですが、写真や絵画など当時の戦争が、どれだけのものであったか知ることが出来ます。戦争はあってはならない事ですが、忘れてはならない事です。

次の世代の子供たちに戦争で死んでいった人たちがどんな思いで死んでいったのか。国の為と教えられ家族を残して死んでいった無念さは忘れてはならず。平々凡々と生きていた今の子供たちにも考えてもらいたいです。

●男性

これらの絵は社長が描くように命令したようだが、社長の無念が感じられるようだ。

日本海軍はろくに護衛を付けなかったが本当に腹が立つ。ジグザグ航行をしなければならなかったのは、彼らの生き残りを懸けてのものだったのだろう。米軍は暗号を解読していた、正確な通過日時を知っていたから、悲しくなった。戦前の日本には船団護衛の発想はなかっただろうが、当時の戦争指導者は糾弾されるべきである。彼らの悲劇が繰り返されないことを祈る。

●女性（福島県）

戦争で多くの人が亡くなり悲しくなります。二度と戦争は起こして欲しくありません。絵を見てつくづく感じました。

50代の想い

●男性（東京都）

大戦中に日本船員6万余人が殉職した。軍人の消耗率よりもはるかに多くの諸先輩方が命を落した。

大戦前に世界3位の海運大国になるまで、日本の海運を支えて下さった先輩方だ。

大久保先生の絵は迫真に迫り、強く胸を打つ。見ていて涙が出そうになるのを、こらえるのに精一杯でした。

戦後60余年経つが、このような企画は続けてほしい。海運国家日本にとって「平和の海」を実感させてくれる格好の機会であるからです。

諸先輩方の夢や悔しさを我々後輩は決して忘れてはならないと真に思う次第です。

●女性

海での戦死は悲惨だ。あまり考えたことはなかったが、船が沈んだ後乗組員や船長の行動が凜として描かれていた。戦争で多くの人が亡くなったのは、大変残念なことだ。

●男性

戦時徴用船の存在、役割を知り、その船や乗組員の方の悲惨な最期を知ることが出来ました。また、そのような厳しい中で、聞き取りをし、絵に描かれたことに敬意を表します。改めて不戦の誓い、祈りを強く思いました。



大阪商船「白陽丸」の航海士として、乗船中の兄が戦没した、中川千鶴子さん（埼玉県・左）と友人。

●女性

海運会社に勤めております。水産関係に勤める主人と共に参りました。以前より一度は拝見したいと思っておりましたので、ようやく来られて良かったと思います。

多くの船員さんの尊い命の犠牲の上に現在の日本、会社、平和な暮らしがあることに本当に心を動かされました。子供たちがこのような悲しい、つらいことにならぬよう、平和を貫ける国であってほしいと願います。

●男性（東京都）

現在の我が国の礎は、尊い船員の皆さんの命により築かれたともいえる、歴史を記録された事、大久保画伯の絵から痛感されます。後世にも語り継ぎ、平和の尊さを広く知らしめる必要を感じます。

60代の憤り

●男性（東京都）

両親から1歳の姉をつれ満州より、戦後引き揚げ船にて祖国にたどり着いた話を、いつも聞いて育ちました。徴用船の話もよくしてありました。本日、この場で絵を目にし、心を新たにしています。

日本国の戦後の繁栄を、私の残り時間をどう生きるかも一度考えてみたいと思います。

徴用船で亡くなられた方々に、改めてしっかりと国づくりを誓いたいと思います。

●男性（神奈川県）

実父が撃沈当日、乗組員として「護国丸」に乗船しておりました。子供の頃から話は聞いておりました。かねてより一度観てみたいと思っていた大久保画伯の作品を今日観ることが出来た。ありがとうございます。

70代の怒り

●女性（東京都 戦没船員遺族）

昭和20年7月27日、私の父は物資を運んでの帰り、爆撃に遭って船と共に沈みました。（母、祖母、子供4人を残して）

今回も記録絵画展を拝見して、顔さえ覚えていない父の姿を探してしまいました。逢いたいです。

●女性（埼玉県 戦没船員遺族）

絵はリアルだと思いました。父がどの絵に近い状況で死んでいったのか・・・いずれにしても「ひどい目に会ったね、お父さん」と思いながら、昭和20年3月でした。

●都外川十子さん（神奈川県）

あの時代の情景をよく書いて残して下さったと感謝致します。私の父も徴用船で戦死して居りますので、是非後世に残して頂きたいと思えます。

戦争の事すら知らない人達が多くなり、もっと多くの人達に見せて上げ考えて頂きたい。もっと各地で展示して欲しいです。

（都外川さんのお父上は、鹿児島県で友人とカツオ船で事業をしていましたが、昭和18年に船ごと徴用され、串木野から戦場に行き、昭和19年に戦死の公報があった。）



●女性 (千葉県)

幼い頃の戦時中を思い出しました。引き揚げ船の事を思い出しました。満州よりの陸と船(貨物船)の辛かった事を思い出します。もう二度と戦争のない平和な日を願います。

●男性 (茨城県)

この様なことは、二度と起こしてはならないと思う。ただ、日本が海上輸送なくして成り立たない事が解っているのはどの位いるのか。甚だ疑問です。貴会も更なる活動をされん事を。

●男性

大洋丸(日本郵船)で亡くなった者が親戚におります。貴重な作品を鑑賞でき感動しました。

●楠名正樹くん (10代・愛知県)



戦艦が沢山あり、どういふ船か良くわかった。戦死者が何人かくわかった。絵には力があり、戦争はこわいものだとわかり、もう二度と戦争はしてほしくないと思った。

●住谷 定さん (80代・茨城県)



当時の軍人、船員らの心情がよく描写されています。日本人の勇気と情けと責任感が表されている貴重な絵です。凄惨な絵で感動させて頂きました。

●男性 (兵庫県)

平和の大切さ、戦争の事、次世代へ伝えることが大切です。全世界に平和の大切さを理解してもらおうように努力しなければなりません。ただ一つの被爆国として。

80代の嘆き

●男性

今は、引退した老船員です。在籍した会社の船の名前を数多く見て、感無量でした。亡くなった先輩たちを思い、今日

は眠れそうにありません。

●男性 (東京都 戦没船員遺族)

今まで遺作展を見たいと思っていましたが、場所が遠くでした。今回は靖國神社に参拝したあとに見るこ

とができ良かったです。

弟が、君川丸(川崎汽船)の乗組員(当時15歳)として帰国途中、魚雷の攻撃で沈没し、戦死しました。当時の状況が、想像され涙…。

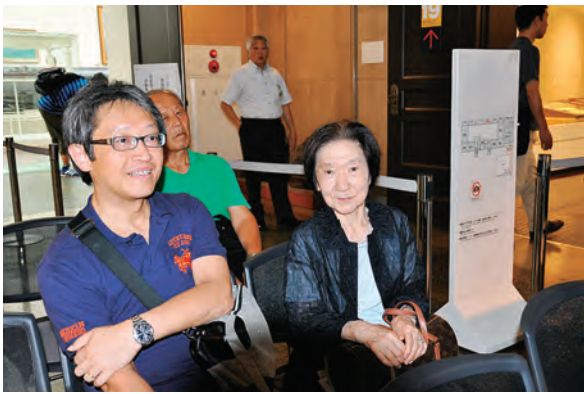
これからの若い人の為に今後も遺作展をつづけられますようお願いいたします。

●男性

この遺作展こそ、これ等の絵こそ、資源小国日本を自覚させる最良の媒体だと思えます。

貴重な絵ですが、公開の回数や開催場所を増加して、海運の重要性を周知させるべきでしょう。

戦時中の海運に対する国の無関心が、今日にいたる国の海運に対する無関心の原因かもしれない。



ご遺族の小野恵美さんと甥の小笠原亨さん

高橋雅夫さん・幸子さん(ご夫妻)



幸子さんの祖父は、昭和17年雷撃により沈没した日本郵船「大洋丸」で戦死された。

●男性

戦争中、我々が乗船した船が雷撃により沈没した事。

同期生達が乗った船が台湾海峡で撃沈され、死亡した事等、生々しい記憶があるので、良くぞこうした絵があったものだと思う。

●男性 (千葉県)

大久保氏の遺作展を見まして、感動しました。私の兄も戦時中、比島に向かう際、輸送船と共に命を失ったと聞いています。大久保氏の迫力ある画風により私も戦後であります。昭和44年、貨物船(約1万トン)に乗船していた時、北海道襟裳岬沖で霧のため、沈没(事故)した思い出があります。

国のため船と共に命を失った方々のご冥福をお祈りいたします。

観音崎公園 戦没船員の碑

海の日清掃・献花式 横須賀海洋少年団

昨年7月14日、横須賀海洋少年団「海の日」行事として恒例の「戦没船員の碑」清掃と献花式が行われた。強い日差しが照りつける猛暑の中、観音崎公園に集まったのは、小2から高2までの横須賀海洋少年団と大和海洋少年団の団員12人と保護者、指導者ら約30人。これに顕彰会と海事関係者が加わって、汗だくになりながら1時間余り清掃した。辺りが清められると「戦没船員の碑」に全員で黙とうを捧げ、一人ずつ白菊を献花した。

横須賀海洋少年団には、海上自衛隊横須賀地方総監部、横須賀土木事務所とともに、第1回追悼式からご支援・ご協力をいただいている。▽団員から活動などについて、話を聞いた。



慰霊碑と周辺を清掃した後、献花式のセレモニーで整列する海洋少年団の皆さん。



■大地 健斗くん 小2

清掃奉仕活動の参加は今年で2回目です。海洋少年団の行事はいろいろあるが、

シーカヤックの練習は好きなほうです。練習はしているけど、なかなか上手になれません。

■長島 崇瑛くん 小2

■長島 聖瑛くん 小2

海洋少年団に入団したのは、産業祭りに海洋少年団の人達が出ていて、そこでロープ結索や手旗の実演を見ておもしろそうだったので、入団しようと思った。

清掃作業に来たのは2回目です。シーカヤックの練習はおもしろい



左から、仲子智裕くん、久保田新くん、長島聖瑛くん、長島崇瑛くん、長島くんのお母さん。

けど、夏は暑くて、冬は寒いのがいやです。

■仲子 智裕くん 小5

海洋少年団には幼稚園の頃から入団しています。

シーカヤックの練習は、皆の中では多いほうだと思います。シーカヤックの二人用に乗っていて、お互いの息が合わない時は、カヤックを止めて1、2または右、左の掛け声をかけあってパドルを動かし、調子をそろえるようにしています。

■赤羽 夏季さん 小6



私は1年生から入団しました。理由は兄がやっていて、付き添いで来

ていた時、楽しそうだったからです。他の海洋少年団と交流するのも楽しいです。



■加藤 麗来さん 小6

入団の理由は船がかっこよかったからと、グラサンの人がおもしろかったからです。

■久保田 新くん 中1

今日のような奉仕作業は、それほど嫌いではありません。海洋少年団の練習では、手旗信号の練習が1番むずかしくておぼえられないです。

シーカヤックでは一人用に乗る事がおいです。一人用の方が自由に漕げるので楽しいです。

これからも少年団の活動は、できるだけ続けるつもりです。

■大園 裕也くん 高2



今年になって小さい子がたくさん入団したので、面倒を見る事が増えた。それで

も海洋少年団に入団して良かったと思っている。

高2なので少年団活動は今年で最後になる。これから先に海洋少年団での活動が、きつと何かの役にたつと思っっている。

年)。お父さんが働いている姿を見て、カッコイイと思ひ海洋少年団に入りました。活動はお父さんに負けないくらい頑張っています。(益原くんと荒川君は、昨年のコメントを抜粋)



■荒川 将一くん



■益原 大和くん



■石井 渚紗さん



■小倉 悠輔くん

お父さんは海上保安官で、ソマリヤの海賊対策で派遣されている、自衛艦に乗っている。(昨年)

海洋少年団の活動ではカメラが一番好きで、日頃の練習は三笠公園付近の海で漕いでいる。

いろいろなことにチャレンジしようと思って入団しました。また、小さい子とふれあおうと、思っ入りました。

友達が海洋少年団の活動をやっていて楽しそうだなと思ひ、入団をしました。



猛暑の中での清掃で汗だくとなり、木陰で一休みと水分補給。



雑草に悪戦苦闘。



雑草刈取りの打合せ中。

海洋少年団とは

小学生から高校生までの男女の団員が海を訓練の場として、子どもころから海に親しみ、団体生活を通して社会生活に必要な道徳心を養い、心身ともに健康でたくましい人間の育成をめざしている。

ちかいつやくそく

『しっけは訓練の基本』という考えのもと「海のような広い心で団結し、すべての人を友とします」「体をきたえ心をやしない、りっぱな海の子になります」との『ちかいつやくそく』



慰霊碑清掃と献花式の後、お昼を済ませ、解散セレモニー。

それを実践するためのいろいろな『やくそく』を基本方針に、団員の子供たちが、それらを自然に身につけ、10の『やくそく』を進んで守れるように指導し、海を通じた社会貢献活動や海を拠点とした活動を活発に行っている。

日本海洋少年団連盟では、将来的に海洋国家日本を支える、心身ともに「健康でたくましい」海洋人の育成をめざし、団員を募っている。

ご協力

ありがとうございました

横須賀海洋少年団「海の日」行事、「戦没船員の碑」清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品とグッズを、今回もたくさんご提供いただきました。記念品を手にした子供たちは、大喜びで「ありがとうございました」と声高にお礼を述べていました。

ご提供いただいた会社・海事団体は次のとおりです。ご協力、ありがとうございました。

- 日本郵船(株)・(株)商船三井・川崎汽船(株)・日本海洋事業(株)・(一社)日本船主協会・(一社)大日本水産会・日本内航海運組合総連合会・(公財)日本海事広報協会・(一財)日本水路協会・全日本海員組合・(一財)全日本海員福祉センター

ご厚情に 感謝いたします

平成25年7月11日以降、10月末までの間に、次の方々に、新たに賛助会員、協賛会員になっていただきました。

また、次の皆様からご寄付ならびに追悼式、終戦記念日献花式献花料をいただきました。

皆様のご厚情に感謝申し上げます。

本会の事業は基本財産の運用益のほか、主に海運・水産等の会社や海事関係団体ならびに個人が加入する賛助会員と、ご遺族や篤志家の方々が加入する協賛会員の会費などによって支えられています。

新たな賛助会員の皆様(順不同)

- 横浜船員福祉協議会様 (横浜市)
- 中原義人様 (摂津市) ○大野義彦様 (東京都千代田区)

新たな協賛会員の皆様(順不同)

- 小野恵美様 (東京都港区) ○多胡明美様 (小金井市) ○塩野龍一様 (八王子市) ○中村幹彦様 (神戸市) ○西連寺勝久様 (新座市)

寄付金(順不同)

- 海友会様 (高知市) ○小野恵美様

- (東京都港区) ○熊田聖也様 (東京都杉並区) ○西連寺勝久様 (新座市) 追悼式献花料
- 橋本進様 (藤沢市)

終戦記念日献花式献花料(順不同)

- 前川弘幸様 (横浜市) ○米山隆昭様 (東京都北区) ○都竹利年雄様 (東京都杉並区) ○多胡明美様 (小金井市) ○日本内航海運組合総連合会様 (東京都千代田区)

戦時徴用船の最期

大久保一郎遺作展寄付金(順不同)

- 小野恵美様 (東京都港区) ○稲見英輔様 (八街市) ○遠藤寛子様 (東京都杉並区) ○楠見和久様 (東京都江東区)



横須賀観音崎公園「戦没船員の碑」の群像

殉職船員遺族支援 ご遺族からのお便り

■中野幸枝さん 宮城県気仙沼市
いつも、ありがとうございます。
家族みんな変わりなく頑張っています。子どもは高校生活を満喫しているようです。

■鎌野智美さん 徳島県板野郡

10月に入り、秋もいよいよ本番です。いつもお世話になり、ありがとうございます。

娘は、高校生活最後の文化祭、体育祭が終わり受験モードに入ってきたようです。目標と自信をもって受験を乗り越えてほしいです。

■松田優美子さん 愛媛県松山市

いつもありがとうございます。
息子は、野球も終わり専門学校に合格しました。

■大竹初美さん 三重県度会郡

いつも送金ありがとうございます。
秋が少しずつ深まりつつあります。家族三人元気ですごしています。

娘二人の学校は、体育祭や文化祭等の行事があり、準備他、忙しい日々が続いています。楽しく元気に参加できることを嬉しく思います。そして、仲間との楽しい思い出があればと思っています。

■阿部悦子さん 宮城県石巻市

日々ありがとうございます。
息子は、2学期もはじまり元気に過ごしております。学校ではクロスカントリーや学園祭があり、それにむけて毎日頑張っています。
よろしく願っています。

殉職船員遺児へ 援護金を支給

殉職船員の遺児たちを守る返還義務のない制度 知らない人に教えてください

当会の事業に商船等で、殉職された船員の遺児に返還義務のない援護金を給付する制度があります。支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。支給期間は、遺児が義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

なお、漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会が援護事業を行っていますので、お問い合わせください。

戦没船員の功績等の調査 事例紹介

事業の一つに戦没船員の功績等の調査があります。先の大戦において戦時徴用船で輸送業務にあたり、尊い命を犠牲にされた戦没船員は分かっているだけで6万6099人のほり、横須賀市の観音崎公園にある「戦没船員の碑」には名簿が奉安され、毎年5月中旬に追悼式典が盛大に営まれています。ご遺族をはじめ親類縁者や関係者の中には、いまだ知らない方々も多く、戦没の状況まで知っている方は、さらに少ないといえます。本会は、こうした方々からの問い合わせにお応えし、調査情報の提供を日常の業務として行っています。その中から本号でも事例のいくつかを紹介します。

■石口由紀男様（広島県福山市）

私は徴用船で戦死した叔父の供養を致しております。叔父は戦死時、21歳で妻子はなく、暫くは祖父が、次いで長兄である父が祭祀を引き継ぎ、そしてその長男である自分が現在、供養をしている次第です。

祖父は叔父の戦死の状況について、多くを語らずに他界しました。父もそうでした。自分には墓碑に残された「昭和18年12月20日 奄美近海にて戦死」しか、よすがを知るすべはありません。

死後永い歳月が過ぎ、五十回忌もだいぶ前に致しました。いまは春秋の彼岸やお盆と年の瀬にお墓を掃除し、お花を手向けることしかできません。

ただもう少し詳しい戦死時の状況が分れば、供養をする者には、有難く思う様な次第です。お手数ながら、叔父が最後に乗船した船の名前と、

潜水艦攻撃の状況など、生存者の証言記録のコピーをいただけませんでしょうか。（手紙）

【回答】

叔父様は、横須賀市の観音崎に建立されている「戦没船員の碑」に名簿が奉安されております。

また、乗船していた「玉嶺丸」についての関係資料をお送りいたします。

■熊田聖也様（東京都杉並区）

今回の「戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展」に来場され、伯父様が、「瑞穂丸」の乗組員で、戦死した時の状況を、調査してほしい旨の依頼があった。

【回答】

伯父様の戦没時の状況について、調査した結果、当会の戦没船員データに伯父様のお名前がありました。しかしながら、乗船していた「瑞穂丸」沈没年月日（昭和19年9月21日）と、伯父様が亡くなられた年月日（昭和19年10月18日）が異なっております。

さらに調査を続けましたところ、当会が所蔵する書籍の記事の中に、「瑞穂丸」の生存船員が帰国のために便乗した「奉天丸」が、敵爆撃機の攻撃を受けて、昭和19年10月18日沈没したとの記述がありました。

このことから推察いたしますと、伯父様は「瑞穂丸」沈没の時は、遭難をまぬがれたが、帰国のために便乗した「奉天丸」が沈没した時に犠牲になって、戦没されたものと思われれます。

乗船されていた「瑞穂丸」、便乗して戦没された「奉天丸」についての記述記事も合せてお送りいたします。

■小林さかえ様（東京都目黒区）
私の叔父（父の弟）は当時の朝鮮総督府水産試験場の「鶚丸」で戦死。戦死時の状況は分かりませんが、長女が立川市に住んでいます。一度彼女を観音崎公園の追悼式に参加させたい。（幼くして母を亡くし、2人の幼児を私の父が釜山まで迎えに行きました。）

叔父の戦死時の状況を調べて頂けましたら幸いです。（手紙）

【回答】

叔父さまは「戦没船員の碑」にお名前が奉安されております。また、所蔵しております書籍の中に、乗船されていた「鶚丸」（みさご丸）の沈没時の記述記事がありましたのでお送りいたします。

後日、小林さかえ様、山田雅子様より今回の調査にたいして、当会へてお礼状が寄せられた。

■宮本重博様（神奈川県三浦市）
父親が戦時中乗船していた「忠洋丸」の船長「和野初五郎」様の慰霊をしたいと、以前より父親が願望していた。父が高齢のため早急に実現したいと思っている。

和野様の情報等を調査してほしいとの依頼があった。（電話）

【回答】

調査のご依頼のありました和野初五郎様につき、当会の戦没船員のデータの中に和野様のお名前がありました。お父様が船長であった和野様の慰霊をされたいとのことですので、戦没時の情報等をお知らせいたします。

和野初五郎様は、横須賀市の観音崎にあります「戦没船員の碑」にお名前が奉安されております。当会は毎年5月中旬に「戦没船員の碑」において、追悼式を開催しています。来年の追悼式の日程が決定しましたら、案内状を送らせていただきます。後日、依頼者は父親とともに観音崎の「戦没船員の碑」にお参りました。当会が、お知らせした情報等から和野初五郎様のご遺族の消息が判明し、ご長男に会うことになったと連絡があった。

全国6カ所の慰霊祭へ献花手向け 御霊の冥福と海上平和を祈念

戦没船員の碑及び殉職船員碑の維持管理等に対する協力

本会の事業のひとつに、戦没船員の碑および殉職船員の碑の維持管理等に対する協力という事項がある。戦没船員の碑は、観音崎公園にある慰霊碑群で建立後、神奈川県が採納・管理している慰霊碑のことで、殉職船員の碑は全国に50カ所以上ある物故船員の碑のうち、恒例として慰霊祭・追悼式を営む主催者に対して用意をお伝えしている。

平成25年度、全国で営まれた殉職船員慰霊祭は次の6カ所で、宮原耕治会長名で献花が捧げられ、物故船員のご冥福をお祈りし、海洋永遠の平和を祈願した。

- ▽殉職船員無縁塚慰霊祭
7月5日、北九州市門司区 真光寺、北九州海の日協賛会
- ▽物故船員慰霊祭
7月5日、横浜成田山仮本堂 「海の月間」横浜地区実行委員会
- ▽唐桑町の殉難者慰霊祭
8月30日、向ヶ森慰霊碑前広場 唐桑町海の殉難者慰霊碑保存会
- ▽以西底曳網漁船殉難者慰霊大祭
10月24日、福岡市西公園 光雲神社、福岡海寿会
- ▽久田船長殉難111年記念祭
10月29日、石川県能登町 久田船長石碑前、久田船長顕彰会
- ▽慰霊碑の建立除幕式・追悼式
7月14日、岩手県大船渡市 大船渡地区海難救助互助会

慰霊碑除幕式・追悼式 大船渡地区海難救助互助会



稿
大船渡地区海難救助互助会
海難殉難者慰霊碑の建立

寄
創立50周年の記念事業として、50年間に海難等で殉難された方々の鎮魂と平和と安全、幸福を願って、慰霊碑を建立。除幕式と追悼式を行った。

遠野 紳哉

大船渡漁業用海岸局長

はじめに、東日本大震災の大津波により大船渡地方も大きな犠牲と被害を受けました。全国の皆様から救済物資、義援金やその後の各方面からの多大なるご支援に心より感謝申し上げます。当地方水産業も復旧、復興が進み養殖物も出荷されるようになり徐々に前へ進んでおります。誠にありがとうございます。

さて、大船渡地区海難救助互助会は釜石海上保安部の指導により昭和38年に発足し、海難事故が発生した場合に海上保安庁の救助が直ちに到着するまでの間において、会員相互で海難救助に協力し、従事した船舶の燃料費、遭難した乗組員の遺族に対する葬祭料、見舞金支弁を行うこととし、扶助基金の積立を行い、有事に備えようとしたものです。以来50周年の節目を迎えるにあたり、会員乗組員の海難殉難者約130名の

の尊い命を失い、犠牲になられた方々の御霊の魂と、海難事故により沈没、廃船となった漁船の魂を鎮めるための慰霊碑と船魂碑を、太平洋を望む大船渡漁業用海岸局敷地内に建立いたしました。これにより慰霊碑除幕式及び追悼式を梅雨の合間の晴天に恵まれた7月14日に、ご遺族をはじめ釜石海上保安部、大船渡市長、地元漁協組合長並びに関係官庁の代表者、会員、約130名のご参列をいただき、犠牲になられた方々により哀悼の誠を捧げ、出漁漁船の航海安全を祈念いたしました。

出席のご遺族の中には、鮭鱒流網船遭難により乗組員10数名全員が犠牲となった事故のご遺族が多数参加され、最近それぞれで五十回忌法要を行い、誘い合って参加されたこと、幼い当時に父親を無くし、事故の詳細を知りたくて参加された方、東日本大震災の大津波により避難のため沖出中に2隻の漁船が転覆して、行方不明となったお2人のご遺族もご家族で参列されました。年月が経っても突然失われた肉親への深い悲しみは変わらない事を感じさせられました。また、今回の慰霊碑建立をこのほか喜んで頂きました。

慰霊祭の準備に際して日本殉職船員顕彰会様にはご指導頂き、また、供花も賜りました。誠にありがとうございます。ここに感謝を申し上げます。